

アウトリーチ報告書

東海大学 工学部 航空宇宙学科 学部2年 水田奈菜子

UNISEC/UNISON プロジェクトのひとつである母校訪問プロジェクトを、本年度は2度行った。

私にとって初めての講演となったのは、2005年9月14日(木)に母校である愛知県日進市立日進西中学校での実施である。



Fig.1 愛知県日進市立日進西中学校

今日の中学校教育において、宇宙に触れることはほとんどないようだ。そこで、中学校側としては、宇宙や地球に興味を持つきっかけを作ってもらいたいとの事だった。一般に「宇宙開発」と聞くと遠い存在と感じる人が多い。それは、国の機関が行うイメージが定着しているからだ。そこで、中学生にとって割りと身近な存在である大学生の宇宙開発を紹介することで、より身近に感じる事が出来るのではないかと思う。



Fig.2 授業の様子



Fig.3 話を聞く中学生

母校訪問プロジェクト 2005

当日、午前中が体育大会の予行練習で疲れが見えていたが、彼らは真剣に耳を傾け、授業に入り込んでくれた。自己紹介から始まった授業は、能代で上げたロケットの説明、TSRPの紹介と続き、宇宙の話に入った。

主な内容は、ロケット、地球と月の関係、地球環境について、そして、スピンオフである。中でもスピンオフは特に好評であった。宇宙は遠いものであるという固定概念を崩し宇宙は身近であることに驚き、回りを見渡してみるきっかけとなった事と思う。



Fig.4 残された森林の面積



Fig.5 スピンオフ



Fig.6 宇宙食の試食

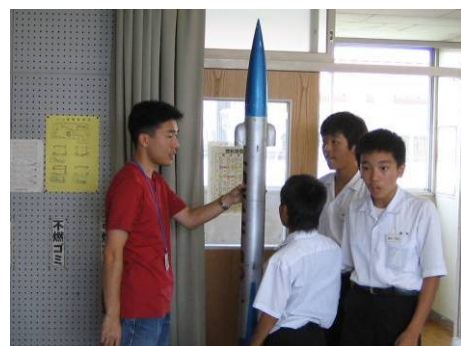


Fig.7 授業終了後

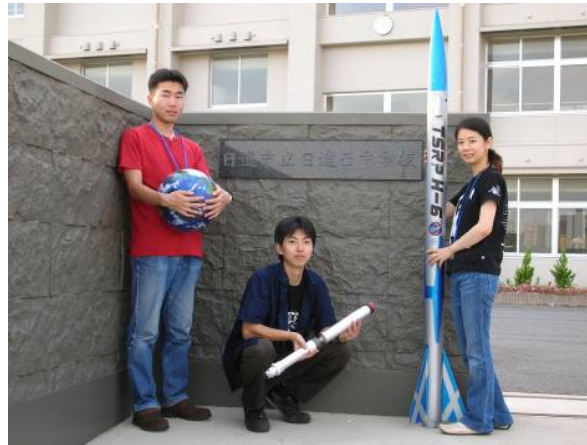


Fig.8 参加メンバー(左から白幡真一(M2)、山口敬之(B4)、水田奈菜子(B2))

また、2回目は2006年2月1日、愛知県瀬戸市立祖東中学校においての実施である。これは、8月に日進西中学校を訪問したことで、瀬戸市教育委員会を通して中学校側からのアプローチで開催に至った。

内容としては、日進西中学校で行ったものを簡略化し、モデルロケットの打上げデモンストレーションを加えた。当初、中学3年生の選択理科の授業を担当することになっていたが、その他の選択教科の生徒や先生も参加し、モデルロケットの打上げデモンストレーションでは全校生徒が見学するほど大盛況だった。白煙と共に打上がるロケットに、大きな歓声が寄せられた。授業後に、真剣に質問をしてくれる生徒もあり、興味を持つ生徒も少なくは無いはずである。



Fig.9 授業の様子(有松千良(B1))



Fig.10 説明を聞く生徒



Fig.11 モデルロケット打上げ準備
(中央：水田奈菜子(B2))



fig.12 打上げ！

これを機に宇宙への興味が高まり、いつの日か私たちと同じフィールドにひとりでも立ってくれる事を望む。

両中学校でも、たった1時間の中に詰め込み、表面しかふれることが出来ないものもあったが、通常の授業では知ることが出来ない世界を見ることが出来たと、先生共々喜んでくれた。

この講演を行うに当たり、準備をしっかりとやらなければならない。中学校側との日程調整に始まり、発表資料内容検討、資料作成と、本番までにやることは沢山あった。中でも、発表資料の作成には時間がかかった。普段、私たちが使っている言葉や専門用語を簡単な言葉にし、わかりやすい言葉にすること。相手の目線に合わせた説明を心がける。内容に飽きが来ないように、五感で感じるような工夫が必要である。そうすることで、より理解を深めることが出来ると思う。これは、アンケート結果にも現れている通りである。からもわかることで、打上げ映像や宇宙食の試食など、実際に”体感”することで、より関心を持つことがわかる。

このプロジェクトは、発表者自身も大きな経験ができる。そして、話を聞いてくれた生徒が、これを機に宇宙への興味が高まり、いつの日か私たちと同じフィールドにひとりでも立ってくれる事を望む。